

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

| | | | |
|------------------|--|------|------------------------|
| 研究計画書番号 | RP-P1-22 | 研究期間 | 2022年3月8日から2026年3月7日まで |
| 研究課題名 | 原爆被爆者における放射線関連性の免疫学的変化をもとにした固形がんリスク推定の予備的調査：末梢血 CD4 T リンパ球におけるナイーブ T 細胞の相対数ならびに T 細胞受容体レパトリーの多様性をもとにした成人健康調査協力者のがん発生追跡調査 | | |
| 研究責任者（所属） | 楠 洋一郎（放射線影響研究所） | | |
| 試料・情報の利用目的及び利用方法 | 利用目的： 近年、がん免疫療法が一部のがん症例において成功したことにより、T 細胞の免疫応答が場合によってはがん細胞を根絶できることが示されました。一方、原爆被爆者の末梢 T 細胞には放射線に関連した変化が認められているので、そのために被爆者の T 細胞の抗がん免疫応答を妨げられて、がんリスクが上昇した可能性が考えられます。この研究の目的は、放射線 影響研究所（放影研）の被爆者健診で測定してまいりました T 細胞測定データをもとに、がん発生を追跡調査してその可能性を検討することです。 利用方法： 1988 年から 2011 年の間に広島で健診を受けられ、血液中のリンパ球サブセットの相対数および機能に関する調査の説明に同意いただいた約 800 名の方について、T 細胞や他のリンパ球の測定データと 2015 年までのがん発生の情報の関連性を統計学的に解析します。ナイーブ CD4 T 細胞は体の中で作られてまだ活動していない T 細胞で、新たに発生するがん細胞や感染病原体に応答する可能性を持つ細胞です。この間の健診で繰り返し放射線に関連したナイーブ CD4 T 細胞の減少が示されましたので、抗がん免疫応答の調査として着目しました。また、T 細胞が、がん細胞などの異物を認識する範囲を T 細胞受容体レパトリーといますが、その多様性もがんに抵抗する能力を表すと考えられますので、測定データを利用いたします。 | | |

| | |
|---|--|
| 他の機関への提供の有無 | <input type="checkbox"/> 有 提供先機関名： <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 利用し、又は提供する 試料・情報の項目 (提供する試料・情報の取得の方法) | 放影研が保有する情報：採血時年齢（月の特定の日、1 日と 15 日に設定）、性別、被ばく線量（1 ミリグレイ単位で丸めたもの）、免疫学的検査（放影研 研究計画書番号 3-87, 1-93, 4-02）におけるナイーブ CD4 T 細胞の相対数、T 細胞受容体レパートリー、および CD8 T 細胞や NK 細胞など抗がん免疫 応答に関与するリンパ球の相対数の測定結果、喫煙歴、血球数測定値 広島地域がん登録（広島県市の事業）におけるがん診断情報：診断年月日（月の特定の日、1 日と 15 日に設定）、発生部位、組織型 2022 年 3 月 30 日から利用を開始しています。 |
| 利用する者の範囲 | 放射線影響研究所 楠 洋一郎 三角 宗近 杉山 裕美 京泉 誠之 吉田 健吾 |
| 試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称 | 放射線影響研究所 分子生物科学部 吉田健吾 統計部 三角宗近 |
| 統括個人情報保護管理者 | 放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀 |
| 問い合わせ先 | 【研究担当者】 氏名：楠 洋一郎 公益財団法人 放射線影響研究所 分子生物科学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131 |